

自然保護と観光政策の両立

ドイツと日本の比較について

龍谷大学法学部 牛尾研究室 中原実華

発表構成

1. 研究の背景-活動目的と意義及び対象と方法-

2. ジオパーク構想について

2-1飛騨山脈の環境コントロール

3.様々な法令による規制、自然公園とは

3-1.自然公園法について

(改正前自然公園法による環境コントロールの状況)

3-2.改正自然公園法について

(改正自然公園法による環境コントロールの状況)

4. 自然公園政策(環境保護)と観光政策の交叉について

発表構成

5. ドイツとの比較

5-1. ドイツの法律の仕組み

5-2. ドイツの自然公園

5-3. ドイツの自然に対する態度

5-4. ドイツの自然観光政策の俗化・陳腐化防止策

6. まとめ

6-1. 飛騨山脈地域で今後期待されること 自然観光政策の俗化・陳腐化防止策

6-2. 研究成果のまとめ

1. 研究の背景と目的

◎活動の目的と意義

1. 自然をコントロールする法律にはどのようなものが存在するのか
2. 自然環境とその環境を維持し、観光政策を両立させるにはどのような方法があるのか
3. 自然公園法をもとに現在の環境コントロールの状況と観光政策の両立について検討する

対象と方法

◎対象

1. ジオパークの認定を目指す
2. 龍谷大学のある京都から近い地域

◎方法

1. 現地に赴き、ヒアリング調査を行う
2. 留学を機にドイツを比較対象とする

2. 飛騨山脈ジオパーク構想

ジオパークとは「地球・大地（ジオ:Geo）」と「公園（パーク:Park）」を組み合わせた言葉「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所。

飛騨山脈の豊かな自然をもとに、

- ・住み続けたいまち
- ・自然を守りたい
- ・自然を伝えたい

持続可能な地域づくり

＝ジオパーク

[「飛騨山脈ジオパーク構想ホームページ参照」](#)

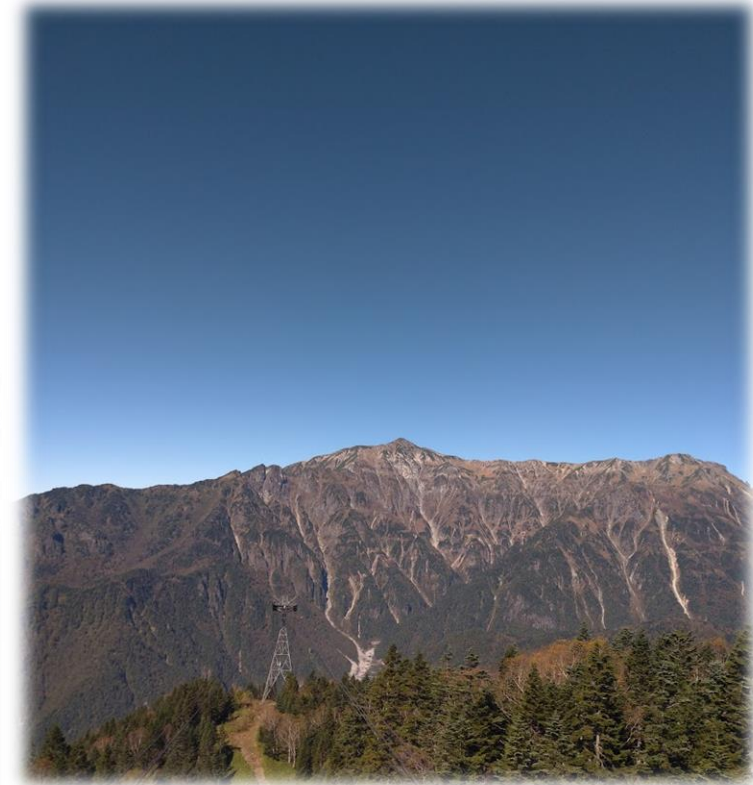
2. 飛騨山脈ジオパーク構想

2-1 飛騨山脈の環境コントロールについて

EX≫ 乗鞍山麓五色ヶ原の森

- ①入山者数の制限
- ②マイカー規制
- ③入山はガイド同行が義務

⇒先進的な環境コントロール



3. 法令による規制

・自然公園とは...



3-1 自然公園法

○目的

自然公園法 第一条

「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。」

⇒ 日本の優れた風景地を自然公園に指定し、自然保護と観光などの利用を進める

今年の4月には、改正自然公園法が成立し、5月に施行。

全国立公園や国定公園にも展開し、
自然を満喫できる質の高いツーリズムの実現とブランド化、
減少した国内外の利用者の復活、地域の活性化を図ることが狙い

背景には、、、

「国立公園満喫プロジェクト」

一番のポイントは



保全

利用

改正前 自然公園法による 環境コントロールの状況

改正前は、、、

特に「**保護**」を重要視

⇒人間が手を加えない状態、ありのままの自然の維持

「**原生林**」の価値の重視

改正自然公園法による 環境コントロールの状況

改正後は、、、

「**二次的自然**」にも価値対象を広げ、保全に努める

「二次的自然」とは、

人間の手がある程度加えられた自然
「里地・里山」

⇒ 文化的景観という概念の誕生

自然に対する哲学の変化



改正自然公園法の主な改正点

- ① 自然体験活動促進計画制度の新設
- ② 利用拠点整備改善計画制度の新設
- ③ 餌付け等の行為への規制や違反行為への罰則の強化

自然体験活動促進計画制度の新設

○ポイント

手続きの簡素化

⇒グランピングやカヌーなど 自然体験アクティビティの提供

登山道の整備

利用 ルールの作成と周知

人材育成 など

これによって、、、

地域関係者が一体となって行う、魅力的な自然体験アクティビティの開発・提供・ルール化などが進められ、長期滞在につながる国立公園の楽しみの充実が図られる。

利用拠点整備改善計画制度の新設

○ポイント

■手続きの簡素化

⇒廃屋の撤去や跡地の活用

景観デザインの統一

電柱の地中化など

これによって、、、

地域関係者が一体となって行う、廃屋の撤去や旅館街・温泉街などの機能の充実、景観デザインの統一など、自然と調和した街並みづくりが促進され、魅力的な滞在環境の整備

餌付け等の行為への規制や 違反交への罰則の強化

○ポイント

違反に対する罰則の引き上げ

⇒生態系保護や固有種の保護

これによって、、、

野生動物による人的・物的被害の発生の防止や、禁止行為への厳しい対処が可能となり、多くの
方々が楽しめる豊かな自然環境の確保が一層図られる。

これらの改正点を踏まえて、、、

○土地の利用が緩やかになることへの期待

従来：自然公園の「特別地域」「特別保護地域」の存在により

⇒手続きが複雑、土地の改変に時間を要する

観光地としての利用が進まない。

改正後：手続きの簡素化、地域の自主性の強化によって、観光面での利用促進を期待

自然公園政策(環境保護)と観光政策の 交叉について

各政策・法令の特徴と課題

- ①すべての保全対象が「二次的自然」になったわけではない
- ②二次的自然と原生的自然の完全な線引きは困難
- ③登山道など、所有者不明地の整備

3.ドイツとの比較



ドイツの法律の仕組み

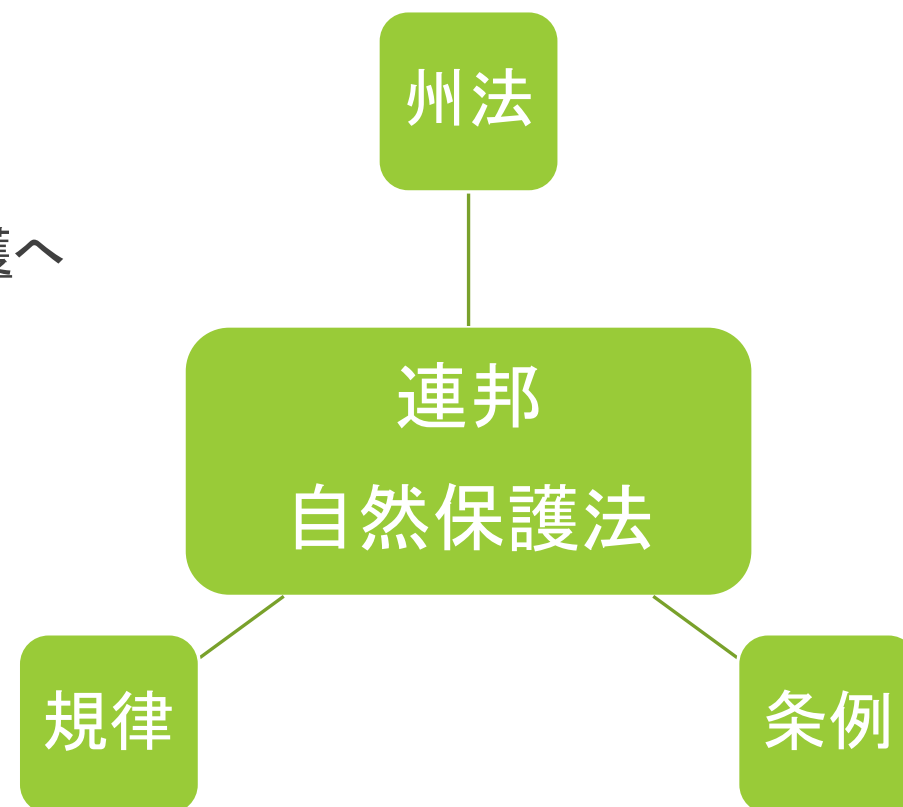
○連邦自然保護法 (Gesetz über Naturschutz und Landschaftspflege)

大綱立法の権限のみ与えられている。

内容充足、規律部分は、州の立法に委ねられる。

⇒柔軟な法の制定が可能、能動的で、形成的な自然保護へ

自然保護の「**次世代への責任**」を明文化



ドイツの自然公園について

○ドイツと日本の自然公園制度

・日本 「地域制公園制度」



・欧州諸国の制度



○独自の公園計画を自治体が作成する

⇒ 自治体の権限が強い

ドイツの自然公園について

国立公園: 比較的大面積の地域を対象

人為を極力排除して自然生態系を保護する

自然公園: 比較的面積の大きい地域を対象

自然の保護とレクリエーション利用を図ることが目的

多様な**土地利用を前提とした地域**でもある

地域振興を目的としていることも

ドイツの自然に対する態度

- ・ビオトープの存在
- ・人間中心の自然保護だが、エコロジー思想を重視
- ・「開かれた自然」という概念からの転換
- ・能動的で形成的な自然保護へ



National Park Eifel

ドイツの自然観光政策の 俗化・陳腐化防止策

- ・観光とレクリエーション

⇒日本にとっての観光とは？

ドイツでいうレクリエーション

- ・専門家ならではのツアー

- ・アクセスしやすい環境

⇒公有や私有を問わず立ち入り可

(連邦森林法 14条一項)



Wildschweinge hege

4.まとめ

4.1飛騨山脈地域での自然観光の俗化・陳腐化防止策

①ロゴマークの採用

ロゴマークにより、ブランディング効果の発生
⇒地質・地形といった直接的でわかりやすいメッセージ

ジオツーリズムと地域振興を接続させる



4.まとめ

4.1飛騨山脈地域での自然観光の俗化・陳腐化防止策

②災害の仕組みを学び、災害に備える

地質・地形の特徴を知ることによって、
災害がおこる仕組みを学ぶ

⇒住む街の地形的な成り立ちや歴史を学び、
災害に対する知識を身に着けることができる。



4. まとめ

4.1 飛騨山脈地域での自然観光の俗化・陳腐化防止策

③ 専門ガイドによる専門的なツアーの展開

⇒ サービス面の贅沢ではなく、特別な体験ができるということに
旅行の価値を上げている。

★ コロナ禍でツアー開催困難時は、「ジオマップ」の活用
個人でジオサイトを楽しめるような工夫



4. まとめ

4.1 飛騨山脈地域での自然観光の俗化・陳腐化防止策

○今後

・滞在型の観光へ

⇒「自然」を対象した観光ならば、エコロジーへの配慮
電気バス、自動車の利用

・レクリエーションとしての気軽な利用

⇒公共的な性格が強い「自然公園」、料金設定の



4. まとめ

○総括 持続可能な観光、自然、地域であるためには？

・すべての保全対象が「二次的自然」に切り替わったわけではない

⇒飛騨山脈エリアは原生的自然

・自然公園法では補えない部分の検討

⇒日本の自然公園制度の管理運営について

・人材育成のためのきっかけづくりと仕組みづくりの強化

⇒高額なツアーではなく、レクリエーションとしての楽しみ方

Nachhaltig 持続可能な環境、地域の発展につながる

参考文献

- ・『ドイツ連邦共和国における自然保護法則(一)』著:北山 雅昭 早稲田大学
- ・『エコツーリズムは持続可能なのか』著:フंक・カロリン 地理科学vo1 .57 no .3pp 158～167.2002
- ・『ジオパークと国立公園:地域観光振興における課題と可能性』著:熊谷 嘉隆
- ・『ヨーロッパの自然公園における関係主体の関与ーイギリス, ドイツ, イタリアの事例ー』著:八巻一成 (森林総合研究所北海道支所)Journal of Forest Economics Vol56 No , 3 .2010
- ・『国立公園におけるエコツアーの発展過程と持続可能性に関する研究』著:丸上 雄哉、出口 敦
- ・『ドイツ南シュバルツバルトにおける森と人の関わりと森林管理の現状』著:野堀嘉裕
- ・『国立公園制度の運用実態と課題 裏磐梯に関する研究その二』著:川崎 興太
- ・環境省HP

<https://www.env.go.jp/press/109250.html> 最終閲覧日2022年7月18日

参考文献

- Bundesministerium der Justiz

https://www.gesetze-im-internet.de/bnatschg_2009/BJNR254210009.html

最終閲覧日2022年7月28日

- 飛騨山脈ジオパーク構想

<https://hidageo.com/archives/1094>

最終閲覧日2022年月28日

- National Park Eifel

<https://www.eifel.info/natur/nationalpark-eifel>

最終閲覧日2022年7月28日

参考文献

▪ National Park Sächsische Schweiz

<https://www.nationalpark-saechsische-schweiz.de/>

最終閲覧日 2022年10月28日

▪ National Park Schwarzwald

<https://www.nationalpark-schwarzwald.de/de>

最終閲覧日2022年10月28日

ご清聴
ありがとうございました

Danke für's Zuhören!!!

